

オンリーワン



バリアフリー
ペーパー

6月号

平成 23年6月7日発行

偶数月発行

この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障害当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。

今年は例年より早く梅雨入りし、ジメジメとした毎日が続いています。しかしながら支援センターは職員の青野さんが、めでたく結婚し「久保さん」になり、私津島も第二子出産の為、今月末で産前休暇をとらせていただくこととなりました。後任の職員については、後日ご紹介させていただけたらと思います。ジメジメ湿気を吹き飛ばすように、私達の周りは幸せな出来事が続いています。天気が悪いどうしても気分が滅入りがちですが、気持ちの持ちようで日々の生活が豊かで幸福なものに変わる♪カラッと晴天のような笑顔のたえない毎を送りたいものです。（支援センター津島）



第7回福祉・健康ふれ愛フェスティバルに参加して

今年も爽やかな五月晴れの下で第7回福祉・健康ふれ愛フェスティバルが4月29日（金）西条市総合福祉センターで開催されました。

「がんばろう日本」のスローガンのもと、熱意あふれる多くのイベントが催され、各会場には待ちわびて居たような表情で来られた西条市民が一斉に集いました。

私が所属するサークルも午前中にほとんどの作業が終了する程の忙しさで市民の皆様ボランティアが根付いた様に思いました。

また、今年の健康ふれ愛フェスティバルでは塩見シマ子先生の『心の健康講座 心を元気にするお話』も開催されており、参加されたMSさん(72歳)からとても感動したとの感想をいただきましたので掲載させていただきます。

【塩見先生プロフィール】

塩見先生は西条市小松町に在住、教員生活37年、そのうち12年間は養護学校（現在の特別支援学校）に勤務され、平成7年に57才で退職されました。

その後、養護学校の卒業生や地域で孤立し困っている人達が自由に集まれる場所が必要であると考えられ、退職金で自宅横に「のらねこ学かん」をつくられました。また、各地で講演活動も精力的におこなわれています。



【MSさんの感想】

先生の心を元気にするたくさんの言葉・お話から、たくましく生きる勇気をいただいた。特に「生きて人を助けることが、人生のテーマ」「人の絆こそ大切、自分たちのまちで輝いて生きる」は、きっと忘れられない言葉です。最後に先生は「心に命を……人間はすごい、オンリーワンの人生を築いて欲しい」とお話を結ばれました。

日頃からその生き方を学びたいと思っていた先生のお話をお聴きする機会を作っていただいたことに感謝すると共に、私も先生の熱い思いを是非、仲間に伝えていきたいと感じました。



3月11日の東日本大震災以後、復興のために日本各地からボランティアの方々が現地に応援に駆けつけているニュースを見ます。また、被災された方が温かな支援の手に心の底から感謝と労いの言葉を掛けています。人と人との絆と温かい励まし言葉……まさに今、私達に必要な事だと感じました。（梅野）

当事者の奮闘記 未来への足跡(あしあと)



介護の仕事に挑戦

今回は、軽度の知的障害を持ちながら、高齢者のグループホームである「こうゆう庵」で介護職員として働いている、徳永陵さんをご紹介します。取材の日は5月の陽気とは思えないほど蒸し暑い日でした。取材場所に来てくれた陵さんの大きな目がキラキラと輝く様子から、優しい好青年であることがすぐに伝わってきました。介護職員として日々の仕事にかける思いを聞きました。

勤務先である「こうゆう庵」は、丹原町寺尾に位置し、グループホームとデイサービス事業を行い、地域のお年寄りを支えるアットホームな施設です。

陵さんは、昨年6月に就職し「こうゆう庵」で働き始めて1年になるそうです。仕事をしたいと考え、「あけぼの作業所」に2年間通って準備し、みごと介護職員として採用されたとのこと。今では、食事の準備や介助、入浴のお世話、レクリエーションなど、入居されている方の生活全般のお世話を担い、夜勤も頑張っているそうです。さらにすごい!と思ったことがあります。自宅の壬生川から勤務先の寺尾まで、片道1時間、往復2時間の距離を毎日自転車で通っている事です。雨の日も、寒い冬でも、仕事が大変でも、休むことなく職場まで自転車を走らせているという陵さんの頑張りに、関心するばかりでした。



取材風景 (左から村上・陵さん・梅野)



この腕で金メダルを取りました!!

若い人が、それも障害のハンディを持つ人が、介護という大変な仕事を続けることができているのはなぜだろうか……。1つは、陵さんはおじいちゃんおばあちゃんと一緒に3人で暮しているということ。おばあちゃんの足が不自由なので普段から大変な事を手伝ってあげているとのことでした。2つめは、今の仕事が好きで続けていきたいとの意思を強くもっている事です。お世話も苦にならないと話す優しく力持ちの青年の姿が頼もしく、心があたたかくなりました。

将来は、ヘルパー資格や原付の免許も取得したい。そして彼女もできたらいいな……。今年24歳になる陵さんの夢は大きく広がります。

さらに、陵さんは体格の良さを生かしてスポーツでも活躍しています。サッカーではゴールキーパーをしたり、昨年の障害者のスポーツ大会では「フライングディスク」の種目で全国大会に出場し金メダルを獲得したそうです。円形のディスクを投げ目標のゴールの穴に通す数を競うこの競技では、10発中9発成功したそうです。仕事とスポーツの両立は大変だと思いますが、好きなことを続けていけたらいいですね。

これから介護の業界で若い力がどんどん育っていくことで日本の将来は明るくなると思います。陵さんの介護職員としての活躍と成長を私は楽しみにしていきたいと思います。(梅野)



仕事中のワンショット。とてもいい表情で仕事をしていますね。



「こうゆう庵」管理者の天崎さんと主任の竹内さんにお話を伺いました。

「こうゆう庵」として障害のある方を採用したのは、陵さんが初めてとのことでした。当初は不安も少しあったようですが、陵さんの明るさや嫌な顔をせず素直に頑張る所に信頼感を持ったそうです。「なんかあったらすぐに側にいるからね」、「陵君は料理上手で本当にきれいに盛り付けるんですよ」と、他の職員と分け隔てなく仕事をまかせてもらい、評価してもらう中で陵さんも自信をつけ、のびのびと成長していったそうです。

おおらかに受け入れる一方、障害によって配慮が必要な点は、職場で共有するよう努めておられました。具体的にその都度伝える方が陵さんにとって仕事がしやすい事は、みんなの共通理解となっていました。「長く続けられるよう応援したい」。何よりも嬉しい言葉でした。

障害のある方が一般企業で働くには課題もあります。陵さんは、職業評価、作業所の通所、トライアル雇用、ジョブコーチ支援等、支援制度を活用し、本人の能力を生かせる職場で働くことができています。障害は個々で異なり、始めから把握できないもの。関わりを通し本人のしんどさを理解し長い目で見守ってくれることが、何よりも重要であると感じた取材でした。(支援センター 久保)

(イラスト しんすけ)





のぶちゃんのべすとしょと



「あじさいの季節」

今年もあじさいの花が咲く季節となりました。昨年7月6日頃大洲の金山出石寺（きんざんしゅっせきじ）にお参りに行き、色とりどりの花に見とれて思わず写した1枚です。

朝のあじさいは、空気もきれいでひときわ美しく見えました。

撮影：のぶちゃん



交流サマーキャンプのお知らせ



- と き 平成23年7月16日(土) 10:00~15:00
- と ころ 石鍵ふれあいの里
- たいしょう 西条市に暮らす障害をお持ちの方とその家族や関係者
- ていじん 約40名
- ひょう 1人1000円(当日集めます)
- しゅうごう 無料送迎バスもあり(東予総合福祉センター・西条総合福祉センター)
- しめきり 6月30日(木)

自然の中で仲間をふやそう!!



主催 西条市障害者団体連合会主催

後援 西条市・障害児(者)相談支援センター・障害児(者)療育支援事業所西条市社会福祉協議会・知的障害者入所更生施設(星の里)

*アルコール類は準備しておりません。希望の方は、各自ご用意をお願いいたします。

問い合わせ・申込先

○西条市社会福祉協議会 障害者相談支援センター(久保) TEL 0898-64-2600(代) FAX 0898-64-3920

編集後記 当事者の奮闘記～徳永陵さんの取材をして・・・

「陵さん、将来の夢は？」との質問に「人の役に立つ人間になりたい！」と大きな目を輝かせ、はっきりと即答してくれたこの24歳の好青年に、私は好感を持ちました。自転車で往復2時間の道のりを苦に感じず「仕事が楽しくてたまらない！」と始終にこにこ顔で話してくれました。

私は陵さんの話に吸い込まれてしまいました。立派な介護職員になられる事を楽しみにしています。身体に気をつけて頑張ってください。熱いエールを仲間と一緒に送ります。(村上)



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）

編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL : 0898-64-2600 (代) FAX : 0898-64-3920 E-mail : soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp